

金澤北ロータリークラブ

「庭園の国際化」

世界には様々な文化があり、それにともなつて色んな庭が生まれました。それが最近ではグローバル化、国際化が進み、庭に国境が無くなりつつあると云うのも事実であります。今日は、その様な事を踏まえて少しお話しさせて頂きたいと思っています。

私が世界で一番美しいと思っている庭と、一番美しい建築だと言われているスペインのアルハンブラ宮殿。砂漠に生まれた回教徒達にとって、水のせんと流れる緑あふる場所は、まさに楽園でありました。この庭は7世紀頃の回教の王が地上の楽園を作ろうと努力した結果であります。この様に庭というのは、その地方の植物、気候、土質、などに影響されて色々な制約が生まれてきますが、それによって国境を越えた庭の移り変わりをみる事ができるのです。

左右対称のフランス庭園がベルサイユ宮殿で完成すると、ヨーロッパの王侯貴族がその手法を真似するようになります。その後フランス庭園は、より日本的な表現の仕方へと変わっていくのですが、イギリスでも同じように「自然の中に直線はない」と自然主義へと庭園のスタイルは変わってゆきました。そうして完成したイギリス庭園の手法は、その後、世界の公園に非常に大きな影響を与えるようになったのです。

かつて、庭園というのは富と権力の有るところにしか名園はありませんでした。私がそのことを友人の造園家3人との食事の席で話したところ、その中のアメリカ人の女性造園家が「庭というものは庶民のものであり、人民のものだ」

と声だかに怒りだしたことがあります。アメリカ人から見ると、彼らは公園から庭へ入っていった訳であります。アメリカは、公園というものが見事に発達いたしましたから庭は庶民のものであったと思いますが、世界の数字を見ますと全ての場所では庭は王侯貴族の富と権力を持った人達のものであります。

また、一時期、我々は中国と韓国の庭園が日本庭園に影響を与えたのかどうか、と云う事をよく議論しました。デザインコンセプトという設計をする根本思想に於いては、儒教、道教、そして仏教の思想と色々あったのだと思います。しかし、日本という中国とは全く違う気候風土の中で生まれた日本庭園というのは、中国庭園とは関係のない世界に生まれ育ったと私は確信しております。

今、純粹な日本人が作り出したオリジナルな文化ということ、能、生け花、庭園、歌舞伎ではないかと思ひます。そういう意味からしますと、我々はもつと責任をもつて良い庭を作らないと申し訳ないのではないかと思ひます。



岩谷浩三氏

岩谷浩三庭苑研究室

平成十一年二月十八日

(文責・川島正夫)

「奉仕との出会い」2

渡 邊 聡

「援助で救われた命」

「これっ、どうしたの。これっ、だいじょうぶう！。これ、これっ、しっかりしてっ、あきらくん、しっかりしてっ、だいじょうぶう！」。朝の起きがけのように、ただ何となく浮いたようで気だるく、完全に睡魔が去りきっていない朦朧としてファースとした、そんな気分の中のどこか遠くで私を呼んでいる声が聞こえる。そして、その声がだんだん近付いてくる。誰かが私の体を揺さぶっている。“はっ”として目を開けた一瞬、光が目を射し“まぶしい”と瞼を閉じた。そのとき、窓から射し込む初夏の陽光を全身に浴びて光を放つ天女のような影が、私の上から覆い被さるようにして覗いているのが見えた。恐る恐る薄目を開けてみると天女はクラス担任の先生でした。

その日は全校の生徒が講堂に集まり校長先生による朝礼の月曜日で、朝礼のため講堂に整列したクラスの生徒の中に、朝、「先生おはようございます」と大きな声で挨拶をして登校した筈の私の姿が見えず、不審に思った先生がクラスを見回ると、たったまま机に俯せになって失神しているかのような状態で眠っていた私を発見したのだった。

「よかった、気が付いたのね。だいじょうぶね！」と、脇から手を差し込み抱きかかえるようにして私を講堂へ連れて行った。確か小学2年生の時であったと思う。

それから数日後の学校検診で、私と数名の生徒が校医から強度の栄養失調と診断され、その場で非常に痛い注射と、さほど痛くない注射の2本を打たれたあと、鯨油で作った臭いの強いヌルッとした肝油を口に投げ込まれた。終戦直後の事で極端に食料事情が悪いなか、特に食べ物に好き嫌いがあった私は栄養失調で体力が無く、少しの動きにも耐えられないほど衰弱していたことが原因で、そのような状態で眠ってしまったのであった。

私にとって、それからの数カ月間は地獄と天国のような日々で、痛い注射をする日は足が竦んで学校へ行くのが恐く閻魔さんの処へ行くような気持ちであった。この注射には、ほとんどの子が痛いと言っ泣いたが私は決して泣かなかった。一方、あまり痛くない注射をするとき校医さんが「おまえは我慢強いな一偉いぞ。誰にも言ってはだめだよ。」と云って、口の中へ時々注射液をチョット落してくれた。注射は怖いけれど、これが何とも言えないほど甘く、この時ばかりは嬉しい気持ちになった。

今の様に学校給食も無く、家から弁当を持って通学していた時代で、弁当を持って行けないことが多かった私は、いつも昼食時間になると惨めな思いであった。幸いに運動場を隔てたすぐ近くに家が有ったので「家にご飯を食べに行つて来ます」と、先生の許しを得て家に帰るが、家にも腹を満たす十分な食物がなく校庭でブラブラし、空っ腹を抱え、離れたところから弁当を食べる皆んなを羨ましく眺めたことも度々であった。たまにハンカチに包んで弁当を持ってゆくと、新聞紙にくるんだ弁当箱の中から蒸した小さな薩摩芋が出てくる。それでも私には嬉しかったが、周りを見回すとアルマイトの大きな弁当箱に真っ白なご飯がいっぱい詰まり、真ん中は梅干しで赤く染まり、隅はタクアンで黄色くなった日の丸弁当が羨ましかった。時たまの学校給食で、脱脂粉乳で作ったミルクとコッペパンが出る日と、時々ではあったが金槌で叩かなければ割れないほど硬いチョコレートが僅かながら配給される日は最良の日であった。

私が小学校高学年になって、あの時の痛い注射はビタミンであり、あまり痛くない注射はブドウ糖で、それら諸々の品が進駐軍（米国）からの援助物資であることを知った。私がこの事を知つてからは、戦争に負けたのは悔しいけれど自分の命は進駐軍の援助物資によって救われたのだと思うようになった。この頃より、ほんやりとはあるが援助ということの有り難さと大切さを感じるようになっていた。そして、高校生になってからの夏休みや冬休みでのアルバイトで、僅かでもお金が入ると気恥ずかしさを抑え共同募金の“赤い羽根”を買つて詰め襟の胸に付けるようになった。この時点では、まだ寄付とか奉仕とかいう概念は全くなく、ただ街頭で売っている“赤い羽根”を買うという気持ちであり、このことが些かでも援助につながるのと軽い思いであった。



桜

(花言葉…優美、清廉潔白、精神美)

「ロータリークラブに入会して思ったこと」 大垣 悟

ロータリークラブに入会し1年半になろうとしております。正直言いまして私自身は入会については、そんな気持ちもありませんでした。今でも知らない事が多く有り戸惑っています。会員の皆様は、それぞれの分野でのリーダーとして貢献なされている方々です。原稿を頼まれ、思い返して“自分が会員の中で孤立しているのではないだろうか、退会しようかなー”と思った時もありました。1905年にポール・ハリスの提唱による「殺伐とした都会の中から親睦の輪を広げよう」という発祥。そして1920年に我が国に東京ロータリークラブが創設され今日に至っているわけですが、私が始めて“ロータリークラブ”と耳にした時は、High Societyな人格、見識、社会的立場、それなりの財力、の有る人達の集まりであると記憶しております。

そのようなクラブに恐縮しながら入会し、先輩の方より「例会に出席することが大切です。一週間に一回、都合の悪い時はメイクアップをしなさい。継続するのですよ。」と言われ、最初はとにもかくにも出席すること、出席することと意識的に思うだけでした。漸く、何故出席するのが大事かと知らされてきたようです。…例会に行けば、あの人に会えるかな。今日は、あの人元気な顔が見れるかな。…と自分思うように、他の会員も同様に思われるということは相互の信頼が有るからこそであり、それには、先ず休まないで出られるようにする為には、自分が第一に健康である事。家族、職場、そして関わりある人達との“和”を大切にしてからこそと思います。一般に特別な関わりが無ければ接触出来ない方々とクラブの中で気軽に会話できる楽しみ、情報、意見の交換の素晴らしさを教えられています。そして又、自分よりアクションを起こさなければ、唯々、例会に参加し、食事をし、卓話を聞き、指示の有った会合、行事に参加するだけでは何か勿体ないように思われます。

私の性格は“どうかなあ”と思うと、人見知りをする出無精な面があります。自分より進んで会員の中に入っていかねばならないし、又、声を掛け合う事をしなかったならばクラブに居る事そのものの意味が無いように思います。

現在、大不況といえる日本経済は大変な時期を迎えている状況ですが、それよりも會での工業社会、大量生産社会から、高齢化、少子化社会の新しい時代への転換の時に来ています。一般にボーダレスでソフト化の時代への転換です。どうであれ会員相互が知恵を出し、協力してあげることがクラブ発展に寄与する事と考えております。入会から今日まで、自分は親睦委員を仰せつけられているにも拘わらず、その任と自分の行動との間に落差が有ったように思っています。“一隅を照らす”先ず初心に戻って行動することと思っております。

金言、名言

世界全体が幸せにならなければ
個人の幸福もない

宮沢賢治

幸せな人とは
人の幸せを素直に喜べる人である

ゲーテ

ニコニコボックス

3月18日

中谷君 クラブ奉仕について、会員皆様に大変ご協力を頂きました。
乙村君 しばらく休みが続きました。
山上君 誕生日に、美しいお花をありがとうございます。
勝田君 先月はフラワープレゼントありがとうございます。最近仕事上、白と黄色の菊ばかり見ている中、心なごませていただきました。
合掌
合計 10,000円(累計 1,660,000円)

3月25日

京都モーニングRC 木下君 お世話になります。
上田君 去る19日、待望の野々市町金沢市合併促進友の会を結成することが出来ました。両市町の発展を心から願って。酒井司令をお迎えして。
松田君 娘の息子が生まれました。三人目の孫です。
沢田君 ロータリアンお待ちかねの“バイアグラ”が発売になりました。ご希望の方、個人面談に応じます。
本江君 21日の誕生日に、美しいお花をいただき、若返りました。ロータリーに感謝して。
合計 12,000円(累計1,672,000円)

第三回もえぎ会

佐藤 幸子

平成十年度、もえぎ会の行事に当り、いろいろ立案する中で、一番気に掛けていた一つであり、又心の中に温めていた計画を「月心寺」住職 勝田浩之さんのご協力で第三回目に開催する事になりました。当日二十一名の参加を頂きお世話をした一人として喜んでます。

その日は、勝田住職の講話を拝聴し、その後お茶会に続きました。娘時代に習った程度の知識では感どうばかりでしたが、越野さん、合田さん、渡邊さん、はじめ御参加下さった方々のご協力、とても楽しく意義のあるもえぎ会となりました。

終わりに「月心寺」ご家族の皆様はじめ、ご参加頂きました皆様にお礼申し上げます。



「第15回 北遊会競技成績」 平成11年3月25日 北遊会幹事 中川 和人

優勝 磯野進吾 +86	6位 越田和好	11位 中谷栄治
2位 中川和人 +69	7位 中塚康朗	12位 山上啓介
3位 濱井弘利 +57	8位 銭亀賢治	13位 玉田義明
4位 松本範夫 +36	9位 上野雅司	14位 今井嘉津夫
5位 駒栄敏雄 +33	10位 長原俊之	16位 沢田光夫
BB 渡邊 聡		

今回はメンバー全員が参加という北遊会開催以来の快挙?の大会で熱気あふれた楽しい大会となりました。このような良い状態が永く続くことが親睦の効果を高めクラブ奉仕の実績につながるものと期待します。今後ともよろしくお願い致します。

第1255回例会

◆3月18日(木) はれ 12:30~13:30 松魚亭

- 講話
会員 中谷栄治君
「クラブ奉仕について」
- 出欠
出席52名 欠席21名 出席率71.23%
ビジター15名
- 来訪者(敬称略)
松 任RC 西竹弘明(水産加工)
金 沢RC 新家久司 中村外志郎 片木 進
金沢東RC 渡辺勝美
金沢西RC 松村昌彦
金沢南RC 井上 潔 坂井美紀夫
荒井源空 水野義男 辻 彰
高泉 寛
香林坊RC 竹内賢治 北川善昭
百万石RC 谷伊津子
- 幹事報告
○地区協議会 5月16日(日) 11:00~
地場産業振興センターにて

第1256回例会 夜間例会

◆3月25日(木) はれ 12:30~13:30 松魚亭

- 講話

陸上自衛隊金沢駐屯地司令 酒井 健氏
「危機管理」

- 出欠
出席53名 欠席20名 出席率72.6%
ビジター21名
- 来訪者(敬称略)
京都モーニングRC 木下明弘(シニアアクチブ)
金 沢RC 大友佐俊 小林 茂 真柄敏郎
織田義夫 佐藤秀憲 横山英勝
金沢東RC 浦田 進 上田 稔
金沢西RC 小川外代治 辻 卓
金沢南RC 辻 弘 辻 彰 北川泰信
鏑 一郎 星山隆二 神谷清美
香林坊RC 張田珠潮
みなとRC 中谷宗紘 西田幸司
百万石RC 若宮義仁
- 幹事報告
○浅の川園遊会へ協賛金

3月クラブ日誌

- 11日(木) 3月定例理事会 松魚亭にて
次年度 理事会 倫敦屋にて
23日(火) 職業奉仕、親睦委員会
炉辺会合 石亭にて

会 長: 浅野 弘明	S A A: 中田 秀雄
会長エレクト: 長谷川聖人	会 計: 松本 範夫
副 会 長: 本岡三千郎	広報委員長: 渡邊 聡
幹 事: 佐藤 正寿	会 員 数: 76名
副 幹 事: 田中 廣嵩	クラブ設立: 昭和48年10月3日

例会日: 木曜日 12:30~13:30
例会場: 松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事務局: 金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882



この会報は再生紙を利用しています。